

♪ It came upon the midnight clear

クリスマスメッセジ 不合理な贈り物

チャブレン 李 相寅

ヨハネによる福音書 三章十六・十七節

神は、その独り子をお与えになつたほどに、世を愛された。御子を信じる者が一人も滅びないで、永遠の命を得るためである。神が御子を世に遣わされたのは、世を救うためではなく、御子によって世が救われるためである。

十一月、十二月になりますと、世界の多くの都市や町が、クリスマスを喜び迎えるために美しく飾られます。キリスト教にルーツをもつ立教学院も、その意味を思い起こしながら、心を込めて飾り付けをしています。立教大学の庭にも、十一月二十八日の点灯式に合わせてクリスマスツリーと装飾が施されました。池袋の冬の風物詩にもなっている景色です。ぜひ皆さんも足を運んで、クリスマスの喜びを分かち合ってください。

さて、このクリスマスの喜びを一層深めてくれるものがあります。それは「贈り物」です。家族、友人、恋人……互いを思つて準備し、交換することで、クリスマスはさらに温かなものになります。



ここで、クリスマスの贈り物にまつわる一つの短編小説を紹介したいと思います。オー・ヘンリーの『賢者の贈り物』(The Gift of the Magi) という物語です。登場するのは、貧しい夫婦・デラとジム。二人は愛し合っていますが、クリスマスプレゼントを買う余裕がありません。デラは夫に贈るための「時計の鎖」を買うため、彼女のいちばんの自慢である美しい長い髪を売ってしまいます。一方



ジムは、妻に贈る「櫛のセット」を買うため、彼にとつて最も大切な金の時計を売ります。プレゼントを交換する瞬間、二人はそれらが互いにとって使えないものになってしまったことに気づきます。しばし静けさが流れた後、二人は抱き合います。二人は、自分にとって最も大切なものを犠牲にして、相手のために贈り物をしました。それはある意味で「不合理な贈り物」でした。しかしその「不合理さ」を通して、二人はより深く、より大きな愛を経験することになったのです。

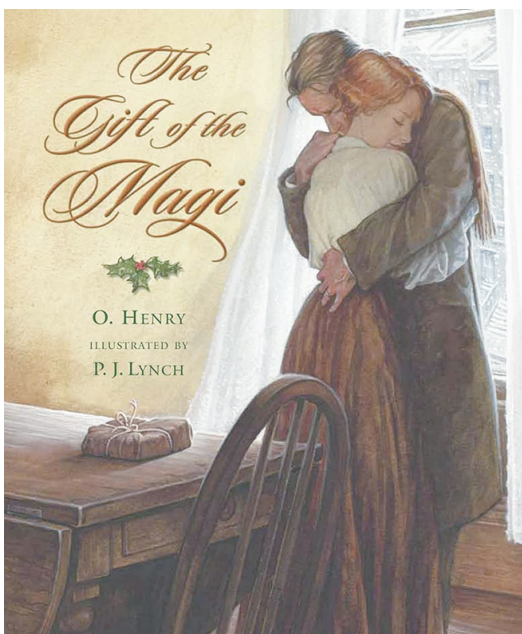


も大切な存在である「子ども」を、人間のためにこの地に送り出されました。そしてその子には後に、人間の手によって十字架にかけられます。神ご自身には何の得もなく、むしろ損失しかないような「不合理な贈り物」です。しかし人間はその「不合理な贈り物」から「愛」を経験しました。

世の中や人間は、ほとんどのことを因果関係や利害関係で考え、行動します。そして、それらをうまく活かして適用することを、合理性と呼ぶこともあります。しかし、世界や人間は、因果や利害、合理だけでは成り立っていません。その外側から、ある時、破るようにして、現れるのが「愛」です。

イエス・キリストの誕生、クリスマスは、まさにその「愛」が表された出来事です。そしてその愛こそが、因果や利害、合理よりも先にある、人間の根源であることを示しています。本當の喜びとは、その根源としての「愛」を知ったときに生まれる。聖霊の働きは、そのことを私たちに証ししてくれます。

ヨハネ三章十六・十七節をもう一度読みましょう。神は、その独り子をお与えになつたほどに、世を愛



中学一年便り

お気に入りの聖歌

僕はこのクリスマス前後の時期が大好きです。僕の誕生日がクリスマスの一週間前にあることもそうですが、待降節（アドベント）の「もうすぐクリスマスが訪れる」というワクワク感や、クリスマス当日に歌う聖歌の盛り上がり、そしてその後の降誕節の余韻。どれもとても心地が良くなります。

一応クリスチャンなので、日曜日に教会のミサに参加することがあります。ミサの中で読まれる聖書も季節を感じますが、歌われる聖歌が最もそれを感じさせます。この前の礼拝の時間でも言いましたが、皆さんがこういった学校に通っている中で、是非皆さんだけの好きな聖歌を見つけてください。好きな聖歌があると、礼拝の受け方も変わってくるはずです。「今歌っている聖歌の意味は何なのか」

中学二年便り

AIが数学を克服する日

二〇二五年、数学界隈で人知れず盛り上がった(?)のは、Gemini Deep Think (条件を満たせば誰でも利用できる) が国際数学オリンピックにおいて、金メダル級(六問中五問正解)を獲得したことだ。ChatGPTなどの大規模言語モデルは論理的推論や正確な計算が必要な場面で基本的な間違いを犯してしまうことが多い。これまでも銀メダル級の成績を残したAIシステムも専門家が数学専用のプログラミング言語に翻訳するなど手間が多かったが、それも解消されていた。今回の国際大会(一〇カ国・地域)の成績は、一位中国、二位アメリカ、三位韓国、四位日本。個人では満点で世界一位になった日本選手もいれば、君たちと同じ中学二年生の日本選手もいた。

(吉井佑介)

もちろんAIが数学を克服し

高校一年便り

自由と責任そして信頼

四月に高校生になって早八か月、授業や行事で関わる中で、すっかり高校生としての生活が板についてきました。中学生とは違い、多くの自由を手にするようになった今、自らの可能性に挑戦する姿はとて頼もしさを感じられます。ときには羽目を外して注意を受けることもありますが、自らを振り返り、行動を改めようとする姿勢は「自律」を掲げてきた学年として、うれしく思います。こうした日々の取り組みが、君達への信頼として積み重なっていると感じます。

「初めに言があった。言は神と共にあった。言は神であった。この言は、初めに神と共にあった。万物は言によって成った。言によらずに成ったものは何一つなかった。」
(ヨハネ一章一節から)

高校二年便り

今を生きる

この聖句は、私が最も好きな聖句で、クリスマス礼拝で必ず読まれる箇所でもあります。二年前のホルトノキでも同じ聖句を取り上げましたが、改めてこの言葉を贈りたいと思います。私達が日常的に発する言(ことば)は常に「神と共にある」ものだと感じます。皆のやりたいこと(自由)を伝えるとき、その思いはまっすぐに伝わってきます。そしてその思いを行動で示すこと(責任)を積み重ねることで信頼を勝ち得ることができます。高校生になった君達は、それを日々の生活の中で体現してくれるようになってきたのではないのでしょうか。

これから学校を支える学年となり、自分の将来を考え始める時期となります。その中で君達から発せられる言が神と共にある言であることを願っています。
Happy Christmas!
And have a good holiday!
(後藤 寛)

中学三年便り

自分の心を見つめる

たからと言って、人間が数学を学ばなくてもいい、ということではない。しかしすぐに答えが欲しい、詳しい解説を知りたい、という時には便利な道具ではある。何より数学の本当の楽しさは、考えて、迷って、ひらめく、その過程そのものにあるのではない。正解を聞くのは簡単だが、自分の力でたどり着いた瞬間の喜びは、AIには味わえない。だからこそ、今、数学で苦労している時間には大きな意味がある(悩んで、解けなくて、もう嫌だと思ふ瞬間こそ、脳が最も成長している瞬間である)。

数学が苦手な人にとっても、得意な人にとっても、AIは強い味方であることには変わりはない。もしかすると、数学のプラでなくとも、AIの進化によって懸賞金一億円の問題が解かれる日が近いのかもしれない。

(伊藤 俊)

高校三年便り

君たちはどう生きるか其Ⅱ

者と敗者に分かれる。高校三年生の後半を迎え、高校生活も残り少なくなってきた。進学のこと、将来のこと、これからたくさん未来を描いてほしい。ただ、そこに至るまでの今をもっと大切にしたい。

休み時間でも教室から一歩外に出るときはイヤホンを外しませんか。毎日のお祈りするわずか三十秒、真剣に黙想しませんか。その時、その瞬間の行動の積み重ねが自身の成長にきつと繋がるでしょう。

(田部達弥)

自身の描く理想の未来は一日一日の積み重ねである。今を必死に生きて、今やるべきことを今取り組んでみる。簡単なようでできない、だからこそ勝

の弥勒如来坐像と両脇に控える無著・世親菩薩立像が展示されていきました。無著は五世紀にインドに実在した僧侶で法相宗の教えを確立しました。世親はその弟です。法相の教えは、「唯識論」と言われ、この世のすべての出来事や存在は、自分の心の働きによって認識・創造されていると考える思想です。自分の心がそのまま表に現れるという意味です。静かな表情で私たちを見つめている無著・世親菩薩立像。どうしたらそのような表情になれるのか、ということはそのような心が内にあるということになります。このクリスマスの季節に自分の心を見つめてみてはどうでしょうか。

(原 真也)

協働して目標に向かう「立教型リーダーシップ」と重ならないだろうか。

テーマを持って真理を探究するという本校の教育目標をあらためて考えてみると、「テーマ」は使命、ミッションとも言ええられる。自分は何ができるのか。人のために何ができるのか。探究ではなく「探求」であるのは、他者よりも優れようと求めるのではなく、他者と共に求め歩む姿を描いている。

卒業のメッセージとしては早すぎるかもしれないが、立教池袋で成長した君たちが、多様なフィールドに飛び出し、社会を動かす姿を期待せずにはられない。何よりも私にとって、君たちは「特別」なのだ。

寛容な気持ちを持ち、多様な価値観に触れ、それをヒントに生き方を考えてみてほしい。それが自由の学府である。

(市橋祐介)